

「保護者会・父母会」「連絡協議会」の 役割と大切にしたいこと

編集部

春、新たな生活がはじまりました。

四月は新しい出会いの時期ではありませんが、二〇二一年三月現在、「新型コロナウイルス感染症」拡大の影響で、日常生活、社会活動全体がさまざまな変化を余儀なくされており、社会全体と一人ひとりが努力を重ねつつあることが求められています。

学童保育に関わっても、やむを得ない状況のなかで、「今年度は、保護者全体で集う場は設けられなかった」「集う場が設けられない状況がつづくなかで、保護者同士のつながりをどのよう

ない地域から寄せられています。

一方、こうした状況のなか、少しずつではありますが、「保護者と指導員が皆で知恵を出しあい、感染の状況にも配慮して、換気などにも考慮しながら、できる範囲で交流する場を設ける工夫をしている」「オンラインなども活用しながら、交流の場を設けている」「保護者会・父母会のなかでの情報共有と意見交換を意識的に行っている」などの様子も伝わってきています。

学童保育にはじめて出会い、「保護者会・父母会ってなにをするの?」「学童保育連絡協議会って、なんのこと?」といった疑問を持つ方もいるのではないのでしょうか。

ここではあらためて、「保護者会・

父母会」「学童保育連絡協議会」の役割、大切にしたいことを紹介します。

保護者会・父母会とは

二〇二〇年五月現在、全国には三万三六七一の学童保育（支援の単位）があり、一三〇万五四二〇人の子どもたちが通っています（二〇二〇年五月、全国学童保育連絡協議会調べ）。

保護者会・父母会（「父母の会」などと呼ぶ地域もあります）は、学童保育に通う子どもたちの保護者が集ってつくり、学童保育を支える組織です。公立公営や法人運営など、運営主体がどこであっても、保護者が自主的につくる



ことができます。

「一人ひとりの保護者の子どもへの願い」「学童保育への願い」そして、「保護者と指導員が共に力をあわせてつくる保護者会・父母会」は、学童保育を発展させる原動力です。その願いや思い、要望を出しあい、束ねていくことが、保護者会・父母会のもつとも基本的な役割です。

保護者会・父母会の具体的な活動内容は、つぎの五点にまとめられています。

◆働きながらの子育ての様子や思いを交流し、支えあう……仕事や子育て、家庭のことなどを率直に話したり、相談できる仲間がいることは、保護者にとって、大きな支えになります。交流は、話しあいの場としての保護者会・父母会はもちろん、行事などに参加・協力するなか

でも行うことができます。

◆学童保育での生活の内容を指導員と共に支える……学童保育での子どもの生活を豊かにするためには、保護者と指導員が子どもの様子を伝えあえる関係構築が大切です。

◆学童保育をつくり、維持し、運営する……保護者が運営を担っているところでは、保護者会・父母会が学童保育を「つくり、維持し、運営する」ことによつて成り立っています。

◆学童保育の施設環境・運営の課題の改善に取り組む……保護者会・父母会は、子どもが日々過ごす学童保育の生活の実態にしっかりと目を向け、指導員と共に改善に取り組むという役割も担っています。子どもにとつて、学童保育が安心して安全に過ごすことができ、通いつづけることができる場となるため

には、子ども集団の規模、施設環境、開設時間、指導員の労働条件など、改善しなければならぬ課題がまだまだたくさんあります。

◆学童保育の施策や制度をよりよくする運動に取り組む……地域や行政に働きかけて、その地域の学童保育全体をよりよくすることに取り組むことも、大切な役割です。

このように、保護者会・父母会は、子どもたちの学童保育での生活の様子を保護者間で共有し、「よりよい学童保育の生活内容や環境」を指導員と力をあわせてつくりだす基盤になります。近年、保護者会・父母会に関わっては、保護者の就労状況に厳しさが増していることや、その必要性が見えづらくなっている状況があることなどを背景に、さまざまな課題も生まれており、保護者自身が、「自分にとつて保護者

